

芦別市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

芦別市は、人口の減少及び高齢化の進展並びに広大な行政区域に集落が点在する地理的問題を有している。こうした中で、市内路線バスは、通院、通学、通勤、買い物など市民生活の足として重要な役割を担っている。

特に、当市の人口に占める65歳以上の高齢者割合は46%を超え、滝川市、砂川市、旭川市など他市に通院する方がいることから、市内路線バスは、JRや地域間幹線系統（滝川・芦別線）と接続する重要な交通手段となっており確保維持が必要となっている。

生活交通確保維持改善計画の目標

1 本町循環線	4. 0人／1運行当たり
2 上芦別線	8. 5人／1運行当たり
3 頼城線	10. 5人／1運行当たり
4 芦別温泉線	11. 4人／1運行当たり

車両減価償却費国庫補助 同上

地域公共交通の現況

- ・JR根室本線（芦別駅、上芦別駅、野花南駅）
- ・空知交通（株）（市内4路線）
- ・北海道中央バス（株）（地域間幹線1路線、道広域生活交通路線1路線、都市間高速1路線）
- ・スクールバス（4路線）

協議会開催状況

- 平成29年6月16日 平成29年度第1回会議を開催
地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について 外
- 平成30年1月19日 平成29年度第2回会議を開催
地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 外
- 平成30年6月28日 平成30年度第1回会議を開催
地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について 外
- 平成31年1月18日 平成30年度第2回会議を開催
地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 外
- 令和元年6月27日 令和元年度第1回会議を開催
地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請について 外
- 令和2年1月17日 令和元年度第2回会議を開催
地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について 外

令和元年度事業概要

- | | | |
|---------|---------------------------|--------------------------|
| 【本町循環線】 | ①芦別駅前～あけぼの団地～芦別駅前 | ②芦別駅前～市立病院～芦別駅前 |
| 【上芦別線】 | ③芦別駅前～南1条東1丁目～さつき団地(国道経由) | ④芦別駅前～市立病院～さつき団地(市立病院経由) |
| 【頼城線】 | ⑤芦別駅前～南1条東1丁目～頼城(国道経由) | ⑥芦別駅前～市立病院～頼城(市立病院経由) |
| 【芦別温泉線】 | ⑦芦別駅前～市立病院～芦別温泉 | |

【車両減価償却費国庫補助】

令和元年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

- ・平成23年度に実施した市民アンケート調査及び昨年度実施した「地域公共交通調査事業」の結果をもとに、25年11月から4路線による循環バスの本格運行を開始し、平成28年10月には系統数や便数の見直しを行っている。令和元年12月に駅前整備を行い地域公共交通のハブ化を図った。
- ・バス事業者事務所、バス車内、市ホームページでフィーダー路線を周知している。
- ・バス車体にマグネット広告を掲示し、少額ではあるが運送外収入を確保している。

2) 運行系統

①②本町循環線



③上芦別線(国道経由)



④上芦別循環線(市立病院経由)



⑤頼城線(国道経由)



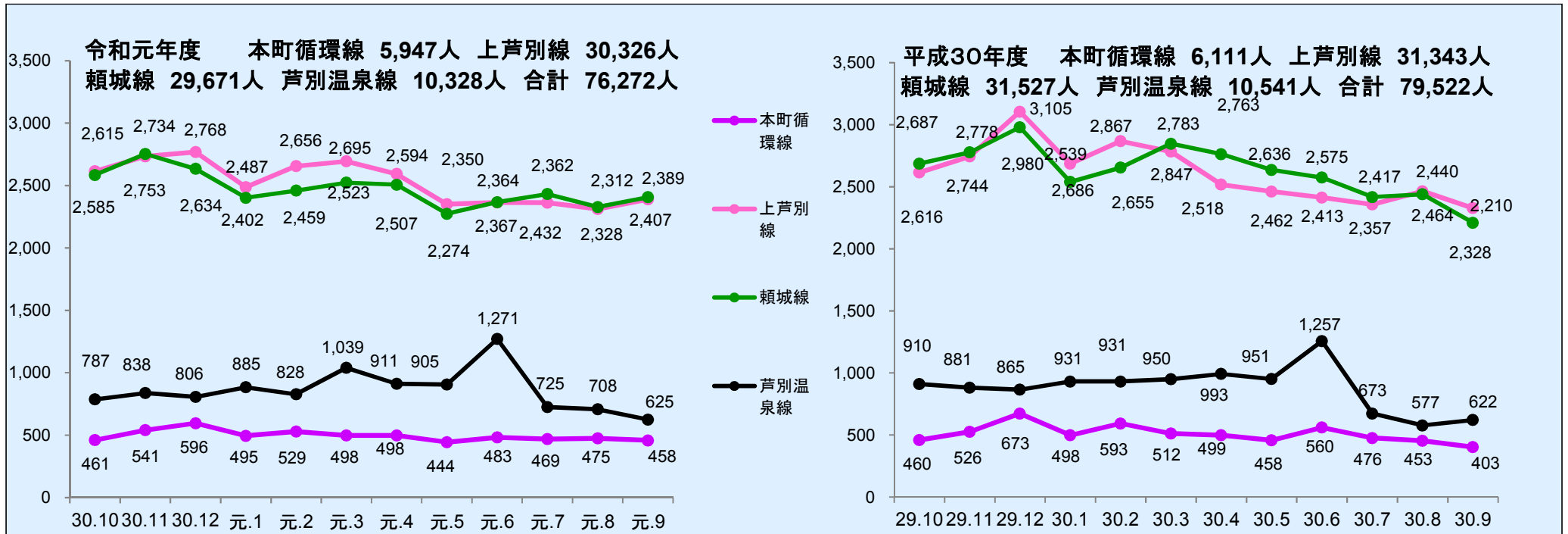
⑥頼城線(市立病院経由)



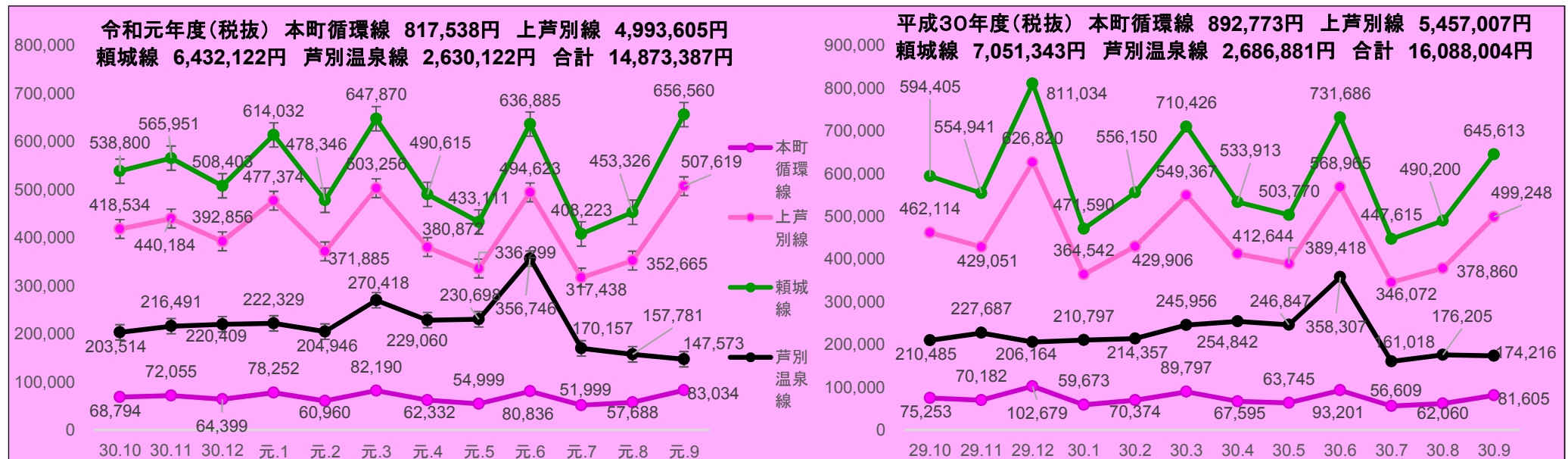
⑦芦別温泉線



3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

フィーダー事業は計画どおり適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

空知交通(株)が運行する市内路線バスについて、4路線7系統を計画どおり運行したことにより、市民生活の足の確保がなされた。

【本町循環線】

目標値4.0人／1運行当たりに対し4.1人／1運行当たりで目標を達成した。

【上芦別線】

目標値8.5人／1運行当たりに対し8.1人／1運行当たりで、目標を達成できなかった。主な要因は、市立病院経由系統において、外来患者の減少に伴い、通院利用者が減少したことによるものである。

【頼城線】

目標値10.5人／1運行当たりに対し9.8人／1運行当たりで、目標を達成できなかった。主な要因は、市立病院経由系統において、外来患者の減少に伴い、通院利用者が減少したことによるものである。

【芦別温泉線】

目標値11.4人／1運行当たりに対し9.4人／1運行当たりで、目標を達成できなかった。主な要因は、昨年8月21日から12月中まで、芦別温泉改修工事を行ったことから、その間施設利用ができず、温泉利用者が減少したものである。

【車両減価償却費等国庫補助】

補助金の交付を受けて車両更新を行ったことで、車両の必要台数が確保され、計画どおりの回数による運行ができた。

7) 事業の今後の改善点

利用状況に応じたダイヤの見直しを進め、運行の効率化を図る。

そのために、芦別市地域公共交通会議の部会である芦別市地域公共交通検討委員会において、ダイヤの見直しの検討を進めるとともに、利用促進に向けた市広報紙による啓発活動を行う。

8) 地方運輸局における二次評価結果

※平成30・31年度事業一括して翌年度評価